

3-12. 宿毛商工会議所（高知県宿毛市）

(1) アドバイザー派遣申請の背景

●地域の概要

【人口】 21,598 人（平成 28 年 1 月 1 日現在）

【面積】 286.1 k m²

【地勢】

宿毛市は四国西南地域、高知県の最西端に位置している。市の西部は愛媛県に接し、南部はリアス式海岸をなす宿毛湾に臨む。

【気候、自然】

温暖な気候に恵まれた宿毛市は全国のどこよりも桜の開花が早い街で、桜の里として情報発信を行っている。海・山・川の豊かな自然に恵まれた地域である。

【歴史】

現宿毛市は、1954 年に宿毛町、小筑紫町、橋上（はしかみ）村、山奈村、平田村、沖の島村の 2 町 4 村が合併し誕生した。

歴史は古く、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代等を通しこれらの文化は、九州或いは瀬戸内から宿毛湾を経て土佐へ入っており、市内には各時代の初期の遺跡が残っている。

【観光】

- ・ 離島（沖の島、鵜来島）
- ・ 海（磯釣り、ダイビング、漁業体験）
- ・ 出井の甌穴
- ・ だるま夕日
- ・ 明治維新以来の偉人の歴史
- ・ 遍路道（39 番札所延光寺、松尾峠）
- ・ 食（文旦、小夏、焼酎、だるま苺、鰹、キビナゴ、皿鉢料理等）
- ・ サンゴ

【地域資源の概要】

温暖な気候や海産物を中心とした豊かな食資源に恵まれる当市は、暮らしやすさという面において優位性を持っている。また、高知県幡多地域の地理的な中心部である当市内には都市機能が整っており、地域の中核病院をはじめとした医療機関も集積している。

また、特産物としてブリ、コビン、ドロメ、キリアイ、カメノテなどの海産物や、宿毛小夏、直七、シモン芋などの農産物など特徴的な素材が存在している。なかでも当市特産のキビナゴはアンチエイジングやアレルギー予防、成人病予防に効果があるとされており、高い栄養価が注目を集めている素材である。

●アドバイザー派遣申請の背景・これまでの取り組み

宿毛市（以下、当市）は四国の西南端に位置し、全国どこよりも早い桜の開花が示すように、温暖な気候と、山・川・海の全てがそろった美しい自然がほぼそのまま残されており、多様な住環境のもと、生活の豊さを実感することができる。この環境が地域では当たり前のもので認識されており、その豊かさをあまり追及していない面が多々ある。

ただ、地理的条件から企業立地は少なく小規模・零細事業者が多く経営基盤が弱い為、雇用の場を求め若年層を中心に人口が流出、少子化・高齢化も加わり、街の人口は減少傾向にある。本取組みを持続的に継続することで、課題解決に向けた一助となればと考えている。

(2) アドバイザー派遣の実施概要

日	時	【1回目】平成28年1月20日（水）～平成28年1月22日（金） 【2回目】平成28年2月4日（木）～平成28年2月6日（土）
場	所	【1回目】宿毛市（出井の甌穴、篠山、宿毛市推奨品の製造工場、宿毛市橋上町、宿毛市役所、宿毛商工会議所、宿毛観光協会） 【2回目】宿毛市（宿毛市中心市街地商店、松尾峠、宿毛市宇須々木、宿毛市役所、宿毛商工会議所、宿毛観光協会）
ア	ド	バ
イ	ャ	ー
		地域観光プロデュースセンター 代表取締役 吉見 精二氏
参	加	者
		【1回目】計11名 【2回目】計12名
スケジュール	方法	
		【1回目】地域資源の発見、発掘（フィールドワーク）の訪問箇所等の打合せ、フィールドワークの実施、個別地区の取組み状況についてヒアリング、宿毛市の観光への取組み状況等のヒアリング等、エコツーリズムに対する意識啓発、DMO含めた組織運営のトレンド等 【2回目】地域に対する提案内容等の打合せ、地域資源の発見、発掘（フィールドワーク）の訪問箇所等の打合せ、フィールドワークの実施、宿毛市への提案、エコツアーの作り方等、遍路道のモニタリング、エコツアー国際化、外国人の受入体勢づくり

(3) アドバイスの内容（議事録）

【1回目】平成28年1月20日（水）～平成28年1月22日（金）

◆エコツアーとは何か/活かせる地域資源「地域の宝物発見①」

場所	内容
中村駅、中村第一ホテル	<ul style="list-style-type: none">・エコツーリズムの考え方について、意見交換・宿毛市の地域資源の中で、活かせそうな場所についてアドバイス
JA 宿毛市楠山出張所、出井の甌穴、篠山、里山の家、（有）菱田ベーカリー和田工場、宿毛市橋上町、宿毛商工会議所、宿毛観光協会、秋澤ホテル	<ul style="list-style-type: none">・楠山地区での取組みについて詳細をヒアリング。宿泊等の対応も可能閑散期は春・秋。季節の旬を取り入れたツーリズムの開発についてアドバイス。自らの誇りを持ちお客さまに伝えることが大切。・宿毛スタイルのエコツーリズムの可能性について助言。重点箇所として楠山、市街地を候補とした
宿毛商工会議所、宿毛市役所	<ul style="list-style-type: none">・エコツーリズムに対する意識啓発、DMO 含めた組織運営のトレンドについてアドバイス



【2回目】平成28年2月4日（木）～平成28年2月6日（土）

◆持続可能な体制づくり/活かせる地域資源「地域の宝物発見②」

場所	実施内容
中村駅、新ロイヤルホテル四万十	・前回の訪問を踏まえ、自治体を含めた各関係者に、どのように来年度に向けた具体的な取組みに繋げていくのか提言内容について打合せを実施。
宿毛市宇須々木文旦農家、宿毛市内（ハマショウ、セレス菊地）、宿毛市役所商工観光課（山戸課長、田中氏、大塚氏）、宿毛商工会議所（会頭 田村章、副会頭 立田雅弘、中山 昌幸、長尾専務、佐藤事務局長、黒石課長補佐）	・宿毛市役所では、エコツーリズムの実現に向けた協議会の設立、予算の紹介等を実施。来年度に向け、検討するとの回答を得た。 ・宇須々木では、50年以上続く文旦農家を視察。地域に根付いた文旦と小夏の関係等説明を受ける。段々畑の解放感を味わうプランの可能性を確認した。 ・会議所から提言を行い、来年度積極的にエコツーリズムを行うことを確認した。
宿毛市松尾峠、宿毛商工会議所	・遍路道のモニタリングを実施。過去の石畳等もコースには残っており、入口の公民館で接待等のプラン構想を練る。宿毛市におけるエコツーリズムの候補地。



(4) アドバイザー派遣実施の効果

1) 参加者や関係者に与えた効果

◆エコツーリズムを推進するにあたり、地域の体制づくりについて明確になった

- ・ 地域の中では、あって当たり前地域の資源が考え方や見せ方によって、「商品」となりうるということが理解できた。宿毛市ならではのエコツーリズムの可能性について、実感が持てた。
- ・ 2回目では、各関係者が一堂に集えるような母体が必要となり、当初は協議会の様な形で推進していくことが望ましいことが理解できた。

◆課題が明確となった。

- ・ 地域資源をフィールドワークによって掘り下げ、商品化をイメージした際、地域ごとの協力者や理解者が必要になること。
- ・ 地域に根付かせるためには、自分たちの取組みだと認知して頂くことが重要だと感じた。

◆その他

- ・ 共通した理念のもと、長期的な計画の必要性を感じている。

2) 今後、期待される効果（具体的な活動の展開など）

- ・ 地域の活性化と交流人口の増加による地域の良さの再発見。
- ・ 地域の連携強化。
- ・ 自治体との連携・情報共有。
- ・ 地元メンバーによる組織化・体制づくり。

3) 今後の取り組み

①参加者や関係者に与えた効果

- ・ エコツーリズムに対する取組みの実現性について認知した。
- ・ 山・川・海が揃っている宿毛市の可能性について確認することが実現した。

②今後、期待される効果（具体的な活動の展開など）

- ・ 地域資源の持続的な利用
- ・ 地域振興
- ・ 地域の各関係者間の連携強化
- ・ 各地域が関わってきた歴史を含めた自然、文化の魅力を地域自体が再認識

③今後の取り組み

- ・ ツーリズムプラン作成
- ・ 協議会の設立
- ・ 地域資源の活用や保全に向けたルールづくり

(5) 今後の取組推進にあたり参考となった事項、その他感想

1) 参考となった事項

- ・ 協議会の設立
- ・ 繁盛期と閑散期の対応
- ・ 地域の魅力の再発見
- ・ 予算確保について

2) その他感想

◆地域の魅力を引き出すには地域の「ひと」が大切

地域の資源を見出す取組の必要性や効果について理解を深め、共有化していくことが大切だと考える。その取組みが、地域の良さを再発見し、自らの誇りを取り戻していく。それは、生きがいへとつながり、今後も持続的に豊かに暮らすことへの一つの答えとなる。

◆地域の各関係者が連携し持続的に取り組む

具体的には協議会等、各関係者が参加できる場づくりが重要。単年度の事業で終わるのではなく、長期的な計画を持って取り組むことが必要。

◆地域に根付かせるのに時間がかかる

地域全体の盛り上がりや協力関係が成り立たないと、成立しないと考えている。さらなる推進体制の強化が必要。

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

吉見 精二氏（地域観光プロデュースセンター 代表取締役）

1) 地域における取組の現状と課題

①現状の取組

宿毛市は、豊かな自然「海」「山」「里」に恵まれ、これに支えられて暮らしや文化が残る地域であるが、一次産業や地場産業の衰退などが今なお続いており、このような状況の打開策として宿毛商工会議所は、新たな発想としてエコツーリズムによる地域観光の活性化の考えに基づき、地域資源を再発見しそれを活かす住民参加型の活動に取り組むことと活動を始動した。

②課題

これまでに、住民主体の活動も散発的には実施されてきたが、持続的な活動に至っておらず、今回の「エコツーリズム推進アドバイザー派遣事業」において、地域資源の発掘や情報発信、地域資源を活用したツアーの企画、体験交流の受入プログラムの企画運営などの手法を研究し、まちづくり型エコツーリズム推進の芽を生みだすための運動を推進することを課題としている。

2) 特に魅力を感じた地域資源等

①魅力を感じた地域資源

宿毛市は四国西南地域、高知県の最西端に位置していて、市の西部は愛媛県に接し、交通アクセスの点ではハンデがあるが、一方で、海・山・川の豊かな自然に恵まれた地域である。全国で一番早い桜の開花宣言など地域自慢を情報発信している。

エコツーリズムに適う観光資源として、離島（沖の島、鶴来島）、海（民泊、漁業体験）、山（篠山）、川（出井の甌穴）、宿毛湾（だるま夕日）、や、遍路道（松尾峠～愛媛県越え）などがあげられ、エコツアープログラムづくりに活かせる素材が散在している。

②上記地域資源に魅力を感じた理由

山間地の楠山地区では廃校後小学校の活用による宿泊体験観光も行われており、地味ではあるが、地元住民によって確かな活動が推進されている。また、海浜地区の栄喜では、女性グループも交流事業や地産品開発の事業を起業しており、人的資源もある。

3) アドバイス（講義等）の概要

取り組み課題の抽出

- ・ 宿毛市内をエリア毎に分け、理想としてエリアのコアとなる人材を育成していく
- ・ 地域資源の活用は、エリアを山・まち・海＋四国巡礼路の、3＋1等に分ける
- ・ 地図上の周遊ルート・動線の概略図の作成
- ・ 地区別、素材のテーマ別資源台帳の作成

取り組みの方向性

- ・ 地域の人材育成については、地域資源を活かし、まちの人と旅人がお互いに高まり合えるエコツーリズムの考えに基づく交流観光の創造を目指すことを目的とする。
- ・ 目的として、「エコツアープログラム企画運営ビジネス起業者」が当市内から出現することを理想に据え、人材育成研修(講習)を実施することを喫緊の課題とする。

講義の目的

- ・ 次年度以降の事業展開も見据え、コア人材(推進リーダー)としての育成を目的
- ・ 宿毛市の着地型観光に対応したエコツーリズムの商品化に向けた方向性を示唆。

講義の内容

- ・ 宿毛の山・川・海と遍路道などを实地踏査し、現場でのヒアリングもまじえた調査に基づいて、現場での打合せタイムに具体的な実施プランについてアドバイスした。
- ・ 例えば、山間部の楠山地区の取組みである廃校を活用した体験宿泊等の事業について、今後は、夏季シーズンの対応に留まらず、閑散期の春・秋・冬の季節も、旬のプログラムを取り入れたエコツーリズムの開発についてアドバイス。
- ・ 自らの地域の宝を誇り、その思いをお客さまに伝えることが交流エコツーリズムの魅力。宿毛スタイルのエコツーリズムの可能性について助言。この地域を、取り組みの重点箇所の一つとした。
- ・ このような実施事例の内容を充実させ膨らますことと、この事例を他地域・他のグループの事業としてノウハウを展開していくことが成功への近道になること。

4) エコツーリズム推進全体構造への取組状況・意向について

①全体構想への取組状況について

今回、いわば初めてエコツーリズム推進の取り組みに踏み出した地域であるが、2度にわたって、宿毛市地域振興課と、観光課にエコツーリズム推進と地域活性化の取組みについて具体的な方向性を提案した。エコツーリズム推進全体構想までは道程がある。

②全体構想策定への意向について

まずは、協議会組織の設立を促しているところである。宿毛市にも宿毛商工会議所が中核となつて次年度も取り組もうとする事業への助成を提案しており、今回のアドバイザー派遣事業を契機にエコツーリズム推進が軌道に乗れば、全体構想の議論も可能。

③全体構想認定に向けて、今後必要なこと

何よりも、地域の多彩な団体個人が主体的に声をあげ、エコツーリズム推進組織を設立し、商工会議所に加えて行政が参加し支援することが、最初の一步となると考える。

5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

エコツーリズム推進による地域活性化で目指すべき全体構想を。

地域の営みが元気でなければ、人は魅力を感じないし、訪れはしない。「地方の元気」（まちづくりと産業再生）と「交流型ツーリズム振興」は車の両輪、好循環を創出する。

まず、エリアの地域資源の強みを活かす。それは、地域に既にある豊かな環境・自然資源に育まれた風土とそこで営まれる暮らし生活、伝統文化資源、そして伝統と技術を継承する地場産業など誇れるものを再発見する。

目標は、地域の暮らしの誇りを伝え、地域住民と来訪者、作り手と使い手（消費者）の出会いの場となる「宿毛型エコツーリズム」を創出することである。

交流人口増大による観光消費の経済効果だけでなく、地域の誇りの回復によるまちづくりの推進と、地域素材、食材をいかした新商品開発、地域ブランド強化に向けた事業革新等の地域経済の活性化、地域内主体の事業推進力の強化につなげていく。

さらに、その流通のための情報発信、販売システム化、基盤構築を行ない、持続的な事業推進へとつなげるため、地域の着地型観光推進のプラットフォーム機能を構築することが望まれる。いわゆる「地域版DMOの構築」による「地域創造観光」の推進である。

いま、地方創生のなかで「地域は観光に頼らなければやっていけない！」とも言われている。とくに、地方は人口減少など直面する課題、時代の流れをどう受け止めるのか。しかし、地方には「文化がある自然がある」ことを活かした成功事例を創出しよう。